

## 解答例

図1より、日本の平均降水量が世界平均を大きく上回っていることが分かる。降水量上位に位置するインドネシアやタイ、フィリピンと同じく日本はモンスーンアジアという多雨地帯に位置していることがその理由であろう。しかし1人当たり水資源賦存量は世界平均を大きく下回っており、欧州諸国と同様に決して恵まれた状況にはないことが分かる。日本は人口の割に国土が狭いことから、1人当たりの水資源賦存量が少なくなってしまうのだと考えられる。図2より、日本における地域別の1人当たり水資源賦存量を見ると地域によって大きな違いがあり、人口稠密な都市部が多い関東や近畿で1人当たり水資源賦存量がかなり少ないことが分かる。これら地域では北アフリカなどの乾燥地帯と同程度の水準となっており、都市部ではいつ深刻な水不足が起こってもおかしくない状況にある。さらに図3より、貴重な水資源賦存量の8割以上が未利用であり、降水を上手く利用できていないことが分かる。図4から分かる通り日本の河川は短く急勾配であることが多く、河川水が短時間で海に流下してしまうことがその理由だろう。

今後は利用割合を増やし、都市部で水不足を生じさせないことが課題となる。河川水の流下を一時的に留める貯水ダムなどを効率的に配置することが解決策として有効ではないか。同時に都市部で使用される水資源のリサイクルも十分に行う必要があるだろう。

(587文字)